



## ミュンヘン便り ～Der Vorbote des Fruehlings～

日本では桜がそろそろ終わる頃でしょうか。ミュンヘンの春は東京や大阪の春よりも少し遅く、本格的な春は5月の始め、信州の上高地に春が来るのと同じ頃によく到来します。それでも3月頃から、人々は春がすぐそこまで来ているのを感じます。今年3月の最初の日曜日、日本のひな祭りの日、ミュンヘンは抜けるような青空に覆われました。太陽を見るのは何週間ぶりか、最後に太陽を見たのはいつなのか、思い出せないほど曇天が続いた後ただだけに、ミュンヘン市民はわらわらと一斉に散歩に繰り出しました。

写真でイザール川が蛇行しているのはるか先に見えている背の高い塔はドイツ博物館、川を挟んだその向かい側にはヨーロッパ特許庁、その背後はドイツ特許庁です。イザール川沿いの河原はまだ大部分が雪で覆われているものの、散歩道を含み所々ですでに地面が出てきており、春を感じさせます。写真で白く見えているのは雪ですが、人々が歩いている黒っぽい部分は地面が露出している部分です。雪が溶けて地面が出ている、これはまさしく春がすぐそこまで来ている、いわば春の



予兆です。

上記タイトルのDer Vorbote des Fruehlingsは、ドイツ語で「春の予兆」という意味です。以前、この言葉を同僚のDr.Wに向かって使いました。Dr.Wは、60代半ばの親切的な弁護士で、私はしばしば昼食の時間にDr.Wにドイツ語の練習相手になってもらったものです。「○○は春の予兆 (Der Vorbote des Fruehlings) ですね。」と言った私の言葉に、Dr.Wは一瞬沈黙し、それから微笑しながら穏やかに聞き返しました。「その言葉を一体どこで覚えましたか?」「ハイジです。」

ハイジとは、多くの皆様もご存じの「アルプスの少女ハイジ」のことです。ドイツ語では「ハイディ (Heidi)」と発音します。「アルプスの少女ハイジ」は、子供用の本としてドイツでもよく知られています。ミュンヘンに移った直後、私はドイツ語の学習のために同僚から子供用アルプスの少女ハイジのアニメのDVDを借り、それを何度も聞いていま

した。キャラクタの顔は、日本で子供の頃に見たものと全く同じです。このDVDのドイツ語は、事務所の同僚が毎日私の周りでしゃべっているドイツ語に比べればずっと明瞭でかなり聞き取りやすいのは確かなのですが、それでも何度聞いてもどうしても聞き取れない言葉があります。あいにく、このDVDには字幕がありません。そこで、私はDVDと並行して本も読もうと考えました。聞き取れない言葉の少なくとも一部は本に出てきているだろうと考えたのです。ハイジの原本は、おおよそ12歳前後の子供用の本であるにもかかわらず、比較的小さい字でびっしりと書かれ、しかも3~4cmはあるかと思われるほど分厚く、到底歯が立ちそうにありませんでした。そこで、私は、厚さ5mmほどで文字も大きく、文字よりも絵の方が多い5歳前後の子供用のハイジを買うことにしました。5歳用ハイジを1ページ読むのにすら、1~2時間かかったものです。このように、ハイジを“バイブル”として私はドイツ語を勉強し始めました。

DVDの中で、ハイジが、溶け始めた春の雪の中に咲きかけの一輪の花を見つけるシーンがあります。そこでハイジがおじいさんに向かって嬉しそうに叫ぶのが、本号のタイトル「Der Vorbote des Fruehlings！」(春の予兆)です。

ハイジという答えを聞いたDr.Wは、納得した顔つきになりました。「ハイジは100年以上前に書かれた本ですからね。古い表現もあります。」「・・・」今でも私のドイツ語は怪しく、親しい友人には「朋子はドイツ語のように聞こえる何かをしゃべっている。」と言われるのですが、Dr.Wと上記の会話をしていた当時は、今よりももっとたどたどしいドイツ語で、会話どころのレベルではありませんでした。たとえば、日本語を習い始めた



ばかりの外国人が「吾輩はステファン・ミュラーである。」と自己紹介したら、皆さんもちょっとびっくりしませんか？

そういえば大学時代、同じ研究室にいたとても可愛らしい中国人の女子留学生が、ある日私に向かって「稲積さん、メシに行きましょう」といいました。私は一瞬沈黙し、彼女に聞き返しました。「それ、どこで覚えたの?」「漫画ですよ。」なるほどねえ。

さて、Dr.Wは大変親切な人なので、さらにこのように続けてくれました。「その言葉は美しい表現です。あなたのような外国人が古い美しいドイツ語を使ってくれるのを聞くのは素敵ですよ。」ですので、今でも私はめげることなくこの言葉を使い続けています。

## 筆者紹介

### 稲積 朋子 (いなづみ ともこ)

1994年弁理士試験合格。2012年ヨーロッパ弁理士試験合格。現在、新樹グローバル・アイピー特許業務法人及びGIP Europe Corp.所属。

1997年、新樹グローバル・アイピー特許業務法人入所し、主に国内外の出願及び権利化業務を担当。2007年11月、ミュンヘンの現地提携事務所に駐在。2009年1月、GIP Europe (GIPグループミュンヘンオフィス) 設立。日本企業からのヨーロッパ出願・中間処理・異議申立・侵害品ウォッチングや、ヨーロッパ企業からの日本出願・中間処理業務を行う。

趣味は、山登り、ほっとすること、寝ること、健康づくりに励むこと。